

## 魚津市農商工連携インターンシップ ～交流人口拡大、定住促進を目指して～

魚津市 産業建設部 商工観光課  
主事 金三津 匠

### 目 次

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 魚津市及び農商工連携インターンシップの紹介 | 3. 実施プログラムの振り返り   |
| 2. 昨年度からの変更点             | 4. インターンシップ終了後の展開 |

### 1. 魚津市及び農商工連携インターンシップの紹介

魚津市は、富山県の東部に位置する人口約4万2千人の市である。水深1,000mの富山湾から標高2,400m以上の北アルプス山岳地帯までが、奥行きわずか25kmに収まる急峻な地形から成り立っており、山岳地帯に降り注いだ雨や雪は川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾に注がれている。このため当市では、富山湾から捕れる新鮮な魚介類はもちろんのこと、肥沃な扇状地では米や野菜に加えてリンゴ・梨・ぶどうなどの果樹栽培が盛んに行われている。また、これらを育む魚津市の地下水を原料とした「うおづのうまい水」は、平成29年度、平成30年度と2年連続で Mondselektion の「最高金賞」を受賞しており、世界的にも高い評価を受けているところである。さらに、埋没林や蜃気楼といった貴重な地域資源の他、ユネスコ無形文化遺産に登録された「魚津のタテモン行事」は夏を彩る一大イベントとなっている。

このように自然、文化、歴史といった魅力あふれる当市ではあるが、一方では定住促進施策や子育て環境の充実などを図っても多くの自治体と同様に人口減少に歯止めがかかっていない現状がある。

この状況を開拓すべく、当市では平成29年度、首都圏で暮らす学生をターゲットとして、短期的には「魚津市の魅力をPRすることによる交流人口の拡大」、中長期的には「参加者・関係者の魚津市への移住・定住の促進」を目的とする地域体験型インターンシップ=農商工連携インターンシップ（以下、本インターンという）を実施したところである。2回目の開催にあたる今年度も、昨年度に引き続き当市主催の下、企画運営面で一般社団法人JA共済総合研究所やシダックス株式会社ウェルネス・ライフサイエンス研究所（以下、WLS研究所という）などにご協力（業務委託契約）いただき、計10日間の日程で事業を実施した。

### 2. 昨年度からの変更点

前述のとおり本インターンは今年度が2回目の開催にあたる。実施内容や全体のコンセプトについて昨年度を踏襲しつつも、今年度は大きく3つの点において昨年度から変更を加えている。

1点目は参加学生の募集形態についてである。昨年度はいわゆるオープン公募の形態をとり、誰でも参加可能としていた。しかし日程が進む中で、学生間で意識の差が生じ、実施プログラムに対する取組み姿勢に温度差が生じてしまっていた。そこで今年度は、昨年度の本インターに参加した学生の一部が所属するWLS研究所スチューデントクラブのメンバーを中心に、その繋がりから参加学生を募集する形態に変更し、本インターに対して能動的に取り組む意識を持った学生を募集することとした。また、昨年度は明治大学生のみを参加対象としていたが、より広範囲からの参加者を募るために、「首都圏在住」の大学生を参加対象とした。

2点目は開催時期である。昨年度の本インターは、前述の「魚津のタテモン行事」を含む「じゃんとこい魚津まつり」の開催時期に合わせ、8月1日～7日までの計7日間の日程で実施した。多様なプログラムを詰め込んだ濃密な内容ではあったが、過密スケジュールで参加学生の心身の負担が大きく、また、用意されたプログラムに対して終始受け身の

状態であった。そこで今年度は、身体的な負担軽減を図るとともに、学生が自ら思考を深め能動的に本インターに取り組めるよう開催時期を2回に分割することとした。最終的に、昨年度の事後アンケートにおいて印象に残ったプログラムとして多くの学生から回答があった「じゃんとこい魚津まつり」が行われる時期を含む8月1日～6日を1回目、当市の豊かな農作物の収穫時期である9月8日～11日を2回目として、計10日間の日程で実施することとした。開催時期を2回に分割したことには、季節によって異なる当市の魅力を発信するとともに、2回目に行う成果発表に向けた準備期間を設け、発表の質を向上させるという別の理由もある。

3点目は、当市に住む人との触れ合いを重視したプログラムを設けたことである。観光パンフレットなどには記載されない当市の魅力を参加学生に伝え、当市での「生」の暮らしを知ってもらうためには、魚津市民と実際に交流することが一番であると考え「一般家庭への宿泊体験」、「JAうおづ女性部と共同での夕食調理」(写真1)、「キャンドルロード

写真1 JAうおづ女性部と共同での夕食調理



準備の手伝い」といったプログラムを今年度新たに実施し、魚津市民と参加学生とが触れ合い、交流する機会を設けた。

### 3. 実施プログラムの振り返り

本章では計10日間に実施したプログラムのうち、事後アンケートにおいて印象に残っているプログラムとして多くの学生から回答があった「たてもん協力隊」、「一般家庭への宿泊体験」について振り返っていく（全体のスケジュールについては（表）を参照）。

たてもん祭りは、魚津市の海沿いに所在する諏訪神社の夏季祭礼であり、氏子町内会が計7基のたてもんを曳き回す勇壮な祭りとしてユネesco無形文化遺産に登録されている。平成10年からは、少子高齢化の進行による曳き手不足を補うため、町内以外の方にもボランティアの曳き手として「たてもん協力隊」

（写真2）に協力をいたでいており、今回、参加学生は8月3日に3町内に分かれてこの祭りに参加した。高さ16m、重量約5tのたてもんを約100人が息を合わせて曳き回すことにより生まれる迫力、熱量、一体感は、普

（表）10日間のスケジュール

日程	プログラム	
8月1日	午後	開講式・講義・魚津漆器絵付け体験
	夜	J A女性部との夕食調理
8月2日	日中	企業訪問（4社）
	夜	ワーク・蝶六練習
8月3日	日中	企業訪問（3社）
	夜	たてもんボランティア
8月4日	午前	洞杉見学
	午後	フリー行動
	夜	キャンドルロード・UO! Jazz・花火見学
8月5日	日中	ミラージュランド・埋没林博物館・水族館見学
	夜	蝶六街流し参加
8月6日	朝	競り市見学・魚捌き方体験
	午前	ワーク
9月8日	午後	ワーク
	夜	一般家庭への宿泊体験
9月9日	日中	農業体験（2か所）
	夜	一般家庭への宿泊体験
9月10日	日中	ワーク（発表準備）
9月11日	午前	成果発表会・修了式
	午後	フェアウェルパーティ

写真2　たてもん協力隊



段の生活ではなかなか味わえない新鮮な経験として学生に強い印象を残したようである。休憩中には他の曳き手や見物客と談笑している姿も見られた。たてもん祭りに加えて、8月4日にキャンドルロード、UO! Jazz、海上花火大会の見学を行い、8月5日にはせり込み蝶六街流しに参加した。実際に参加・見学することで祭りの魅力と集客力を体感した一方、市のPRの場としてより積極的に活用するべきであるとの印象を抱いた学生もあり、最終日（9月11日）の成果発表会では複数のグループから祭りについての提言がなされた。

今年度から新たに実施したプログラムの一つである一般家庭への宿泊体験（写真3）については、経田、村木、片貝地区の計5家庭に学生を受け入れていただき、9月8日、9日の計2泊、主に夕朝食や入浴面でお世話になった。各家庭では特色ある地場産品を食事として提供していただき、また、地区によつても異なる魚津市での生活について、様々な話を聞かせていただいた。例えば、建設業を営む家庭では上棟式の見学をさせていただいたり、中心商店街に住む家庭では、商店街が

抱える問題や将来への展望等をお聞かせいただいたりしたようである。ある家庭では近所の方々が集って夕食会を行ったそうだが、当初、「親密な近所付き合い」が田舎に住むことの障壁を感じていたある学生は、実際に体感することで、近所付き合いがそんなに悪いものではないという印象を受けたそうである。この宿泊体験を通じて、外から見ているだけでは決して知ることのできない当市の魅力、文化、伝統、課題、そして当市での生活がどういったものなのかを学生は肌で感じたことだろう。また、これは筆者の私見であるが、今回の学生受け入れは各家庭にとっても実りあるものだったと考えている。何人かの学生が事後アンケートにおいて、この宿泊体験について「身内のように接してくれたことが嬉しかった」と回答していたが、都会からやつてきた“孫”のような学生との交流は各家庭にとっても普段とは違う刺激を与えてくれるひとときだったのではないだろうか。受入家庭に対する事後調査においても、学生を受け入れたことに対するマイナスの意見はあまり聞かれず、むしろ、無意識に普段より豪華な

写真3 宿泊体験入村式



食事で、もてなしてしまったという声も聞かれたことから、あながち的外れな見解ではないように感じている。

#### 4. インターンシップ終了後の展開

本インターンは8月1日～6日及び9月8日～11日の計10日間をもって終了したが、その後も参加学生と“魚津”との関係性は継続している。10月には3名の学生がプライベートで当市を訪れ、宿泊体験の受入先家庭に再度宿泊した。受入先家庭と電話で近況のやりとりをしている学生もいるとのことである。また、11月24日、25日には、WLS研究所からお声かけいただき、東京都で開催されたキネコ国際映画祭（写真4）において、学生協力の下、特産品の販売と本インターンの事業紹介を行った。こうした継続的な交流は、本インターンの事業目的の一つである「交流人口の拡大」に確実に寄与しているものと考えら

れる。

本インターンで構築された関係性は単なる「交流」のみに留まらない。競り市の見学や魚捌き方体験でご協力いただいた魚津漁業協同組合は、学生が成果発表会で提言した「初心者向け舟釣り体験ツアーの実施」の実現に向けて組合内部で検討中のことである。古くからの漁師町である当市のリソースを活かし、実施方法が具体的で実現可能性の高い提言であったことが興味を引いた理由であると考えられる。そして、実際に当市に滞在して魚介類の豊富さ・美味しさを知り、観光客を誘致する材料になり得ることを実感した学生だからこそ発案できた提言であったと考えている。

当市においても、学生からの提言の実現化に向けての検討を進めている。例えば、富山県のアンテナショップ「日本橋とやま館」における魚津フェアに関する提言をしたグルー

写真4 キネコ国際映画祭での出展風景



プがあったが、今後、出展を行う際には、学生に運営補助として協力を依頼したいと考えている。首都圏に住みながらも、当市を深く知っている貴重な人財である参加学生の協力を得られれば、より大きなPR効果を生むことができるだろう。

今後、当市では、本インターンの協力者、受入企業、参加学生等から得られた事後アンケートの回答を詳細に分析するとともに、過去2回のインターンシップによって構築された学生及び関係者との関係性を深め、さらなる交流人口の拡大を図っていきたい。そして、中長期的な事業目的である「魚津市への移住・定住の促進」の達成に向けた施策を引き続き検討していきたい。

写真5 参加学生の集合写真

